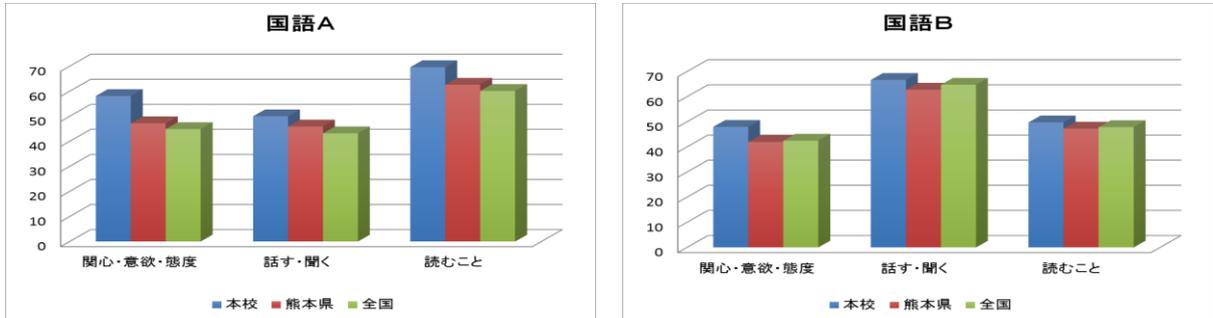


### Ⅲ 研究の成果と今後の課題

#### 1 全国学力・学習状況調査結果から

平成25年4月に全国学力・学習状況調査が行われ、その結果が8月末に示された。下のグラフは、国語A、国語Bの「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「読む」について、本校と熊本県平均及び全国平均を比較した結果である。



国語A、国語Bの「関心・意欲・態度」「話す・聞く」「読む」の全ての観点において、県平均を上回った。解答状況を詳しくみてみると、本校で中心に取り組んできた文学的教材で指導する「読むこと」の5、6年の指導事項エ「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること」については、国語A、国語Bでともに出題され、そのすべての設問において県平均を上回ることができた。

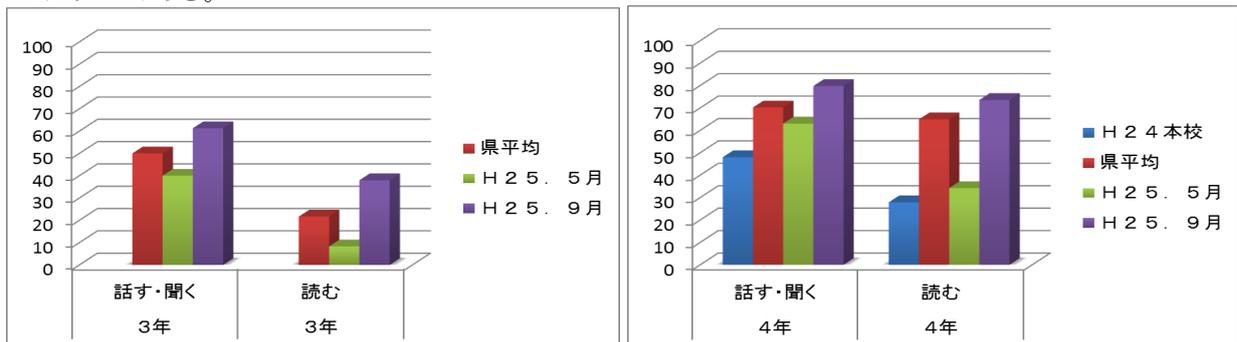
その中で、国語Bにおける「二人の推薦文を比べて読み、推薦している対象や理由をとらえる」設問において県平均を上回っていたことは、日常の授業の中で自分の考えを発表するときに、根拠となる叙述を述べるとともに、その叙述から自分の経験等と重ねながらその考えに至った理由を発表することに取り組んできた成果ではないかと考えている。

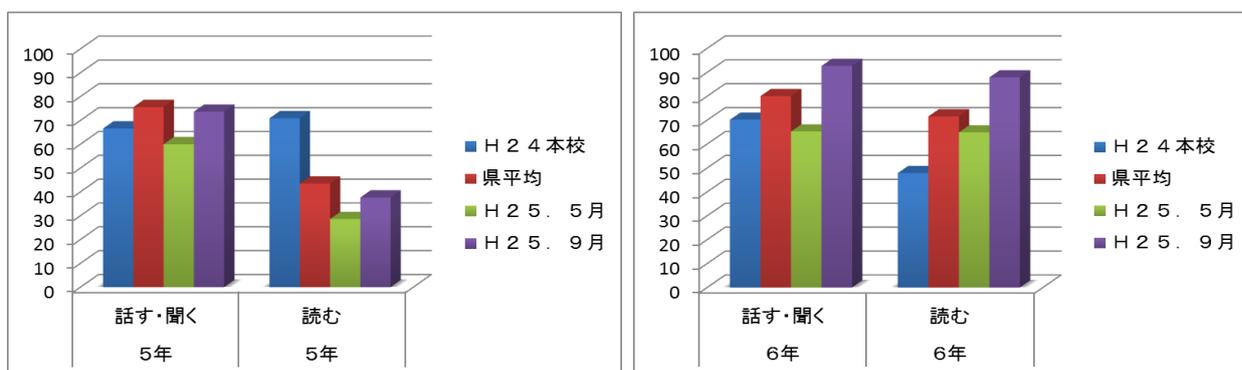
また、「二つの条件を入れて解答する」設問では、条件が二つとも書けているか、いずれか一方の条件が書けていれば正答となっていた。その設問に対する本校の正答率を見ると、条件を二つとも書いて正答している割合は、県平均の2倍近くになっていることが分かった。このような設問は、平成23年度及び平成24年度の調査にもあったが、これまではいずれか一方を書いて正答となっている割合が高かった。

これらのことから、内容を一面的にとらえるのではなく、関連付けて考えようとする力が付いてきているととらえている。これも、自分の意見を友達の意見と関連付けながら考えるようにしてきた「学び合い」の成果であると考えている。

#### 2 熊本県学力調査の結果比較から

平成25年5月と9月に、平成24年度熊本県学力調査問題を活用し、現在の3年生から6年生を対象に調査を行った。全ての領域ではなく、本校の課題である「話す・聞く」と「読むこと」についてのみ実施した。そして昨年度の結果、県の定着率、5月実施、9月実施と比較していった。その結果が下のグラフである。

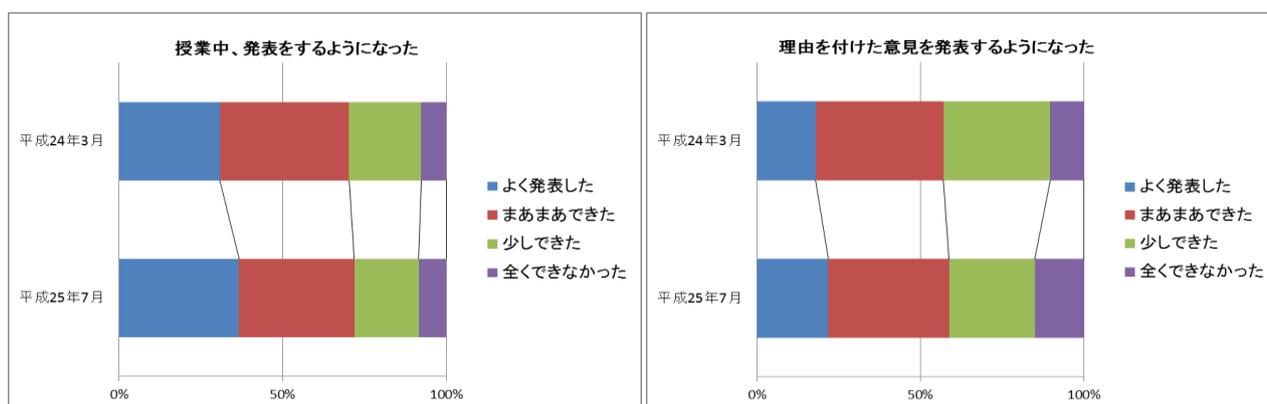




5月実施の段階では、二つの領域とも下回っていたが、9月実施の段階では大きな伸びが見られた。同一問題であるので伸びるのも当然という見方もできるが、4ヶ月の期間において実施していることも考慮しなければならない。「話す・聞く」では、5月の段階では聞き間違いや聞く内容の漏れがあり、正確に聞き取ることができていないなどの課題が見られた。しかし、9月の段階では内容理解が改善されていた。これは「学び合う」場面で、考え—根拠—理由(付け)を意識して話すように指導してきたことにより、友達の考えを共感的に聞くようになった成果だととらえている。ただ「読むこと」では、3年、5年に関して条件に当てはまる叙述を書き抜いたり、内容を短くまとめて書いたりすることに課題が見られた。

### 3 国語科学習に対する意識調査から

下のグラフは、国語の学習における発表に対する意識調査の結果である。授業中の発表に対する意識とその際に理由を付けて発表することについて選択式で回答させ、結果を比較した。



3月は現在の2年生から現在の6年生、7月は全学年で調査を行った。授業中に発表をすることに対して「よく発表した」と「まあまあできた」と答えた児童を合わせると、わずかではあるが増加している。その内訳は、「よく発表した」と答えた児童が増え、「まあまあできた」と答えた児童が減っている。このことから、自分から発表する児童が、以前よりも発表に対する自信をもつようになってきたといえる。

また、理由を付けた意見を発表することに対しては、「よく発表した」と「まあまあできた」と答えた児童の合計が、これもわずかだが増加している。その内訳は、「よく発表した」と答えた児童が増え、「まあまあできた」と答えた児童が減っている。このことから、自分の考えを発表するときは、相手に分かるように理由を付けて言うことが大切だということを理解してきているといえる。ただ「全くできなかった」と答えた児童が増えているのは、低学年から中学年へ学年が上がるにつれて、それまで根拠を理由として答えてきていたのが、中学年からは根拠と理由を分けて言うようになり、そのことに慣れていないことが原因だと考えている。また、中学年から高学年に上がったことによって、自分の考えだけでなく友達の考えを踏まえながら述べるような発言の仕方に慣れていないためではないかととらえている。

以上の結果から、児童は自分の考えを相手に分かるように伝えたいという意識が高まってきているといえる。このことは、学び合いを通してその必要性を感じてきているからだにとらえてよいと考える。

#### 4 今後の課題

これまでの2年間、本校では熊本県学力調査で明らかになった課題の解決に向け、「学び合い」を通して取り組んできた。今後の課題として次の点が上げられる。

- 「考える力」については、友達の意見と比較し関連付ける力(思考力)、多くの意見からよりよい意見を選択し判断する力(判断力)、それらを踏まえて自分の意見を表現する力(表現力)が向上してきたといえるが、まだ十分ではない。今後も継続的に取り組んでいく。さらに、問題解決のために話し合った後、自分の考えや思いを表現する力(表現力)については、個々の表現する力を高めるために、どの教科においてもこれまで以上に行う必要がある。
- 「学ぶ意欲」については、「授業中に発表するようになった」「理由を付けた意見を発表するようになった」という2つの項目において、「全くできなかった」と答えている児童が増えている。このことに関しては、学習満足度が低くなっている児童が多くなってきているととらえている。今後、達成感が感じられるよう個に応じた指導を行うとともに、これらの児童が話し合い活動に参加できるような手立てを図っていく必要がある。

これらの点をこれからの実践の課題として、今後も継続して取り組んでいきたいと考える。